

## 【前十字靭帯再建術時、半月板縫合術後の経過において半月板症状が与える影響】

矢頭 透<sup>1)</sup> 中谷 拓也<sup>1)</sup>

湯朝 友基<sup>2)</sup> 張 敬範<sup>2)</sup> 江本 玄<sup>2)</sup>

1) 江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2) 江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

### 【はじめに】

近年、前十字靭帯（以下：ACL）損傷に合併した半月板損傷に対して、可能な限り半月板機能を温存することが重要であると認識されている。

ACL 再建術（以下：ACLR）と同時に半月板縫合術を施行しても、抜釘術時に縫合部へ再処置を施す症例が存在する。

### 【当院の報告】

「当院における初回前十字靭帯再建術時に施行した半月板縫合術の治療成績」として、半月板縫合術の癒合率、再損傷率を報告した。

（第 52 回日本理学療法学会 2017 年 矢頭）

### 【諸家の報告】

半月板再損傷率 6%～16%

（ Robert Am J Sports Med. 2014;42(9):2184-92 ）

（ Toman Am J Sports Med. 2009;37(6):1111-5 ）

当院の半月板再損傷率 21.3%、諸家の報告と比較すると高い傾向である。

諸家の報告ではいずれも抜釘術時に再鏡視したわけではなく、半月板症状があり、再手術を施行した症例を再損傷例。

今回、半月板症状有無の再損傷率の調査を行った。

### 【対象】

2006 年 5 月から 2015 年 12 月までに初回 ACLR 時、半月板縫合術を 269 例に施行。抜釘術が可能であった 225 例。

### 【分類】

内側半月板縫合群、以下 M 群、外側半月板縫合群、以下 L 群、

両側半月板縫合群、以下 B 群

### 【調査項目】

スポーツ活動実施群の半月板再損傷率、半月板症状有無の半月板再損傷率。半月板症状は McMurray's Test (以下: McM)、関節裂隙圧痛、locking とした。  
統計学的処理は、odds 比、感度、特異度を用いた。

### 【結果】

スポーツ活動実施群の再損傷率について

	Odds ratio	P Value
全体	1.43	0.32
M 群	1.62	0.35
L 群	0.52	0.44
B 群	2.33	0.29

半月板症状有無の再損傷率について

半月板症状全体

半月板再損傷群の症状有無では、症状有り 41.7%、症状無し 58.3%。

	半月板再損傷	半月板癒合
症状あり	20 人	8 人
症状なし	28 人	169 人

感度	特異度	陽性予測値	陰性予測値
41.7%	95.5%	71.4%	85.8%

半月板症状別

	感度	特異度	陽性予測値	陰性予測値
McM	16.7%	98.3%	72.7%	81.3%
関節裂隙圧痛	33.3%	96.6%	72.7%	84.2%
locking	100%	100%	100%	100%

## 【考察】

半月板症状を認めた症例の再損傷率は 8.9%と諸家の報告と同様。

しかし、半月板症状無く再損傷例も 12.4%認めたため、患者啓蒙やさらなる追跡調査が必要。

半月板症状を認めた症例に対して・・・

- ・ リハビリメニューの調整
- ・ スポーツ活動量の調整
- ・ MRI での評価

といった対策を行い、再損傷が生じる可能性を説明し、個々の症例に対応していく必要。

## 【今回の課題と今後の展望】

- ・ 膝不安定性との相関を調査していない
- ・ 術後の膝関節屈曲角度、荷重などの制限期間の違い
- ・ スポーツの種類、頻度、強度の調査を行っていない
- ・ 縫合方法、縫合本数の調査を行うこと
- ・ 脛骨前方移動量との関係性を明らかにすること

## 【まとめ】

- ・ ACLR 時に施行した半月板縫合術の治療成績の調査
- ・ 半月板再損傷率は 21.3%
- ・ 半月板症状を認めた症例の再損傷率は 8.9%

